

第 25 回 ISO/TC211 総会に参加して

社団法人 日本測量協会
GIS 研究所 平田更一

1. ISO/TC211(Geographic Information/Geomatics : 地理情報/空間情報工学)

地理情報に関する包括的な国際規格の策定を進めている ISO/TC211 の総会、他編集会議が中国は西安で開催され、日本代表団の一員として参加したので、会議の内容と西安の街並みを紹介する。

中国で開催するのは、第 7 回総会が開催された 1998 年の北京以来である。会場は、西安ハイアットホテル。ISO/TC211 が発足した当初設定した作業項目の多くは、すでに IS(国際規格)となっており、最近では LBS(Location Based Services:位置に関するサービス)、UBGI(Ubiquitous Geographic Information:ユビキタス地理情報)などに関連した作業項目が増加しており、第 24 回総会で韓国が提案し、時期尚早と繰り延べされた UBGI を中心としたワーキンググループ(以下 WG と略する)10 の成立も焦点であった。

私は、WG9 ヘエキスパートとして登録しているので、19113 品質原理の 5 年目の見直しの会議及び WG9 の全体会議に出席、その後 19111-2(座標による空間参照のバージョン 2)の編集会議に参加する。WG9 の全体会議は予め登録を必要としない会議なので、普段は顔を見たこともない国の代表、編集会議と編集会議の間で時間ができた人、地元中国で標準化活動を勉強する若手など、続々と会議場に入ってくる。WG9 のコンビナーは日本の今井浩教授(東京大学大学院情報理工学系研究科)、ローマの会議以降の WG9 の作業項目の進捗報告を行いながら、総会に向けた WG9 の報告書をまとめていく。

WG9 の主要な作業項目の多くは、すでに CD(技術委員会文書)、あるいは IS(国際規格)となっているが、列記すると以下の項目を検討してきた。以下がその作業項目である。

- ・ 6709 地理的な地点の標準的な表記の仕方—座標による位置表現
- ・ 19127 測地的なコード及びパラメータ
- ・ 19131 データ製品仕様書
- ・ 19135 地理的な情報の登録手順
- ・ 19138 データ品質指標
- ・ 19113 & 19115 品質に関わる作業項目の調和(修正)
- ・ 19145 地理的な位置の表現の登録
- ・ 19146 相互に使用する語彙の共通化
- ・ 19111-2 座標による空間参照— 2 部、パラメータの拡張

10 月 29 日の会議に参加した。ところが、今回の主催国である中国が発行しているプログ

ラムは 08:30 会議開始である。会議場の部屋へ行くと誰もいない。ISO/TC211 では時々あることだが、会議場の表示の間違いがあって、会議室へ入って「この部屋は何の会議？」と聞くことが習慣になっているものにとっては珍しいことではない。顔見知りのドイツ人が言うには会議場に間違いはない、しかし、プロジェクトリーダーが来ていないという。机に座って、水を飲み PC をセットしているとスウェーデン人のリーダーが悠々と到着した。このとき初めて、中国側が配った会議開始時間 08:30 は誰が作ったのかと話題になった。ISO/TC211 の会議は、いつも固定された時間帯で決まっていた。09:00 から始まり 10:30 ~11:00 はコーヒーブレイク。08:30 というのは誰も頭になかったということである。

その他は、よく組織化された中国の標準化委員会の指示の下、順調に進む。30 日(火)には、西安測繪局への見学にも参加でき、大いに満足する会議であった。西安測繪局は丁度創立 50 周年の式典の最中、自慢のデジタル図化機による編集風景も見学した。



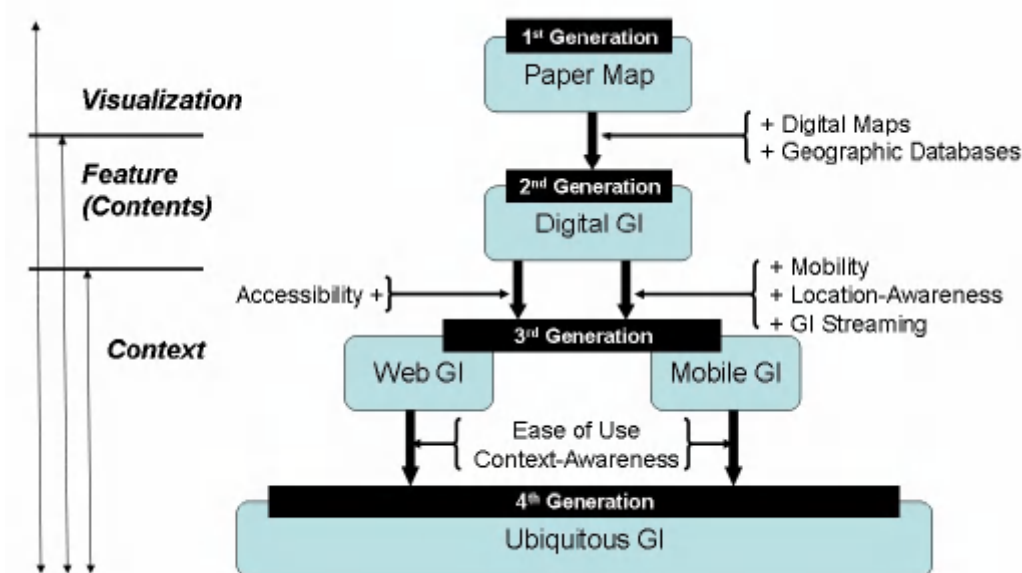
図一 1 ISO/TC211 の総会風景

2. UBGI(ユビキタス地理情報)

韓国は、以前から地理情報に関して KGIS という国家的なプロジェクトを実現し、地形図データ、地籍図データを数値化し、応用として開発した GIS(地理情報システム)をこの会議で何度も発表し、GIS に関する先進国のような印象を与えてきた。前回のローマにおいて、UBGI に関する WG10 の提案を行った。しかしながら、アメリカ、イタリアの「時期尚早」という「反対」で繰り延べになった。当時韓国代表団は WG10 が確実に成立するということで総会時に多くは帰国しており、私たちは総会の決定を聞いての落胆というか、反応は見えていなかったが、日本側への賛成投票の依頼もなく自信タップリな彼らを、一面では傲慢という印象をもっていた。

今回は、用意周到な計画で来たようで、最初から各国代表団へ様々なアプローチをしながら、自分たちの UBGI の概念を主張してきた。その内容は、図一 2 に示すような GIS の

第四世代としての UBGI を位置づけ、いつでも、どこでも地理情報にアクセスできるという内容で終始した。MobileGIS と WeBGIS の先を行く GIS という位置づけである。



図一 2 UBGI の位置づけ

日本側も越塚東京大学大学院情報学環准教授が日本のユビキタス技術の現状をワークショップにて報告され、PI(Position Identifier)を次回総会へ向けて提案すると発表したもので、韓国の UBGI と日本のユビキタス技術との競合が始まったと言って良いであろう。

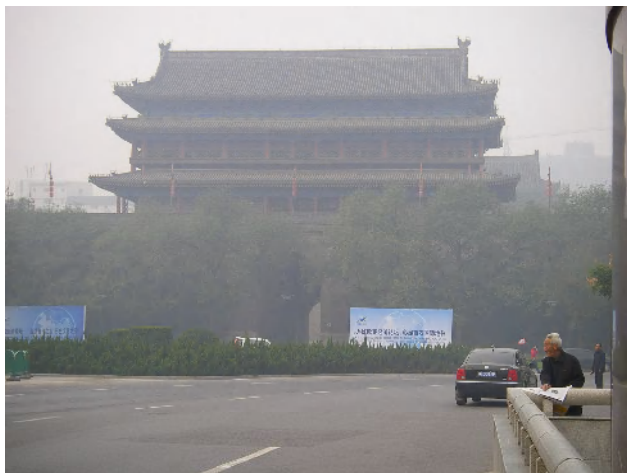
総会最終日に、賛成国が少なかったのは予想外であったが、UBGI を中心とした WG10 の成立が認められた。

3. 西安の街

その昔、西安は長安とも呼ばれ、中国の歴史の中で栄華を誇った時代もある。西側には匈奴に代表される、時の中国を圧迫する軍事力をもった民族が跋扈し、中央にとってはただならぬ空間であった。官僚として西の要地へ派遣が決まった人たちを送る情念の籠った漢詩の数々は、シルクロードの入り口、西安での手向けを切々と詩っている。いつ無事に帰って、家族、友人と酒を飲めるのであろうかと。

約 14km の城壁に守られた市街地は、よく整備されており日本の城郭都市とはまったく異なった景観を見せてくれる。市街地にはイスラム教の信徒も多く、レストランの看板には「清真」という文字を入れたものが多く、羊の肉を茹でた料理を自慢げに見せる。また、餃子の専門店が多く、コース料理は日本人の口にも合って美味であった。刀削麺のチェーン店の看板の店がどこにでもあって、その微妙な味付けは日本人には不可能という麺文化の歴史の深さを教えてくれた。私たち日本人は、昼食は刀削麺、夜は餃子のコース料理と

というのが何時とはなしに習慣になってきた。ただ、ビールのアルコール分から上がいきなり白酒（パイジュ）というアルコール分が40～50%の高い酒であり、紹興酒のような中間のアルコール分の酒がない街には参った。



図一3 西のシルクロードの入り口(安定門)

4. 標準化活動の悲哀

今回は、UBGIが焦点となることで、越塚さんに代表される日本のユビキタス開発関係者が2名参加、全体で8名と賑やかな顔ぶれとなった。しかしながら、アメリカ12名、韓国11名、タイ10名という参加者の数と比較しても、最近日本からの参加者は減少気味であった。それは、11月中旬の朝日新聞の国際標準化活動の国内における評価を取材した記事、「国内において標準化活動などは全く評価が低く、生産活動もしない会議屋と呼ばれている」という文章に代表されるように、生産現場からみると余分な作業を作る、会社にとって利益をもたらすような活動をしていない集団と見られることである。

ISIO/TC211の日本側代表団と言っても、国土地理院在籍の人は国土地理院の海外出張の紹介欄に掲載されるが、その他民間会社の人間は会社内の社報に載ればいほうで、国内委員会の事務局である財団法人日本測量調査技術協会からの派遣であるとも公表されていない。ついでに観光旅行してきたのではないかと疑われるように、全くマイナス評価で終始する。

ISO/TC211のみならず、インターネットで検索すると、国際標準化活動の経験者の不平不満が沢山引かかる。経済産業省は、国際標準化活動の重要性を強調するが、産業界の理解は少なく、今後も参加者個人の奉仕の精神でしか継続はないという愚痴である。